

和尙の需に應じて書いた略傳である。

スイリユウジ

瑞龍寺 前田利長の越中富山に在つた時、廣山惣陽を金澤の寶圓寺から招いて厚く歸依したが、慶長十八年更に之を高岡に迎へ、爲に法圓寺を建て、開山とした。是を以て利長薨後その靈牌を法圓寺に安置し、壱城を東方數町の所に設けたが、後正保二年利常はこゝに一大墓碑を建て、三年その成るに及んで海老坂繁久寺を移して守家たらしめた。利常又法圓寺を改め利長の法蓋によりて瑞龍院と號し、良匠山上善右衛門に命じ、支那徑山萬壽寺の規模に従うて、承應三年工を起さしめ、萬治二年大部分の功を竣へ、その殘部淨頭・廻廊・鎮守堂・浴室・禪堂等は寛文二年に至つて完成した。この間に瑞龍院を瑞龍寺と改めたが、寺號の初見は萬治元年の鐘銘にある。延享三年十一月浴室火を失し、廻廊・山門・額鏡、文政元年山門を再建し、明治中廻廊をも復舊した。當寺には承應三年十二月寺領三百石を附せられ、又明曆三年塔頭四寺を建てたが、萬治二年その東漸院に五十石、法性院・林洞庵・龜占庵に各三十石を興へられた。今佛殿・法堂・總門を國寶とし、外に國寶後陽成天皇宸翰がある。

スウガクスイダ

數學書 一冊。享和二年金澤の三池流算者馬淵文郎の著で、自然數連乘積の和を述べたものである。

スウガクテイイシヨウホウ

數學定位捷法 寛政十一年石黒信由の著。乗算及び除算に於いて數位を決定する捷法を述べたものである。

スウゼンジ

崇禪寺 金澤瓢箪町に在つて、小室山と號し、曹洞宗に屬する。慶安元年前

寶圓寺主雲英が、前永光寺主久外頼良の爲に植屋町心蓮社址に建て、養老所としたものである。當寺には菅原が祀られてゐる。

スウミツヨウロン

樞密要論 幹十卷。枝十二卷に別たれ、元祿五年有澤永貞の記する所。山鹿養目の武教全書に就き、その門下にして己の外叔父であつた關屋政春から得た口訣と、自家の所見とを併せ記したものである。

スエ

淵齋 鳳至郡三井郷に屬する部落。

スエイシ

淵衛石 鳳至郡洲衛に産する石材。安山岩質凝灰岩で、稍赤色ある灰白色の石基中、所々に黒色礫狀物質を混じ、長石類は殆ど陶土化する。質粗糖で脆く、埴は重い。

スオウマチ

周防町 金澤の舊町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に長門町・周防町と並べ載せるが、今は絶え、その名の由來も不明である。

スガイケ

菅池 石川郡陣川庄に屬する部落。

スガイケ

菅池 羽咋郡邑知院に屬する部落。

スガタニ

菅谷 江沼郡奥山方に屬する部落。江沼志稿に、菅公が國守であつた時、その臣をして開作せしめた所であるとの地名傳説がある。同書にまた、この村に大輪の秋冬がある」と記せられる。

スガタニイシ

菅谷石 江沼郡菅谷に産する石材。友藤紀聞に、この村の谷川の石滑かにして、硯又は砥石に作る事ができる。邑人十次郎硯を彫つて近年所々に賣出すとある。

スガタニガハ

菅谷川 江沼郡菅谷領きうりから出で、けおとしといふ所で大聖寺川に

合する。

スガナミ

菅波 石川郡中村郷に屬する部落。寶永誌に、蓮如行脚の際、道場を建てんとて礎石を集め、それに腰を掛けたとて、俗にこの地を御腰掛といふとある。

スガナミゴウ

菅波郷 江沼郡の古郷名で、和名抄に「菅波、須加奈美」とある。今大菅波村・小菅波村が存する。

スガナミヤキ

菅波嶺 江沼郡菅波に産したといふが明らかでない。江沼志稿に「遠堂玄閑所撰の茶湯流傳書に菅波陶器の説あり。元祿以前の遺品にして、西京にて是を有栖川手と稱す。」と記する。

スガハバヤシ

須川林 江沼郡に屬する。源平盛衰記に、「平家不堪して山に入、極樂林・小野寺林・須川林に亂入ければ、源氏續てひら實に攻む。」又「去る四月下旬には、平家十萬餘騎なりしに、雄・長・敵・三條野・並・松・植・越・須川山中路、所々の合戦に亡びつゝ、七萬餘騎は失にけり。」と見える。須川林・須川山、共に菅生石部神社附近をさすのであらう。

スガハラ

菅原 羽咋郡邑知院内菅原庄に屬する部落。道興の廻國雜記に「能登の國に到り待りて菅原といふ所にて、伏見にはあらぬ野山を分け過ぎて今宵かりねを菅原の里。」とある。元祿の郷村名義抄に、此の村の氏神が天神だから村名を菅原といふとあり、又能登名跡志には「此村に行長と云て、利家公より御扶持頂戴の山廻り役あり。又此山手に吉野屋堤とて、四十八谷へ入込し大堤有。」と見える。天正八年九月織田信長、菅原長頼・福宣行清・前田利家を下して能登の州事を掌らしめた時、利家の居住したのはこの菅原であ

らう。畠山記に、利家能登に入り、飯山から四町離れた大光寺といふ寺屋敷に暫請したが、井水が悪かつたから菅原へ移つたとある。系譜に初め飯山に入り、後菅原へ遷つたといふのは、この意味であらうと思はれる。館跡は菅原神社南方の丘陵に在つて、里人御館跡とも大納言山とも言うてゐる。この時菅原長頼は七尾に、福宣行清は富木に館したのであつた。

スガハラジ

菅原寺 羽咋郡菅原に在つて天滿宮の別當であつた。護國山と號し、その盛時には三十六坊あつたといふが、僅かに成喜坊・遍照坊のみ残り、その成喜坊も明治二年に復飾して、今は遍照坊のみとなつた。

スガハラシヨウ

菅原庄 羽咋郡に在つた。この庄が康和から久安の頃藤原基頼・通基・基家三代の所領であつたこと、並びに建仁の頃北野天滿宮領であつたことは、同社の文書によつて知られ、又承久三年注進の能登國田數目録には、「無地頭菅原庄、貳拾三町四段壹、元曆二年立券」と見える。後世亦菅原庄がある。

スガハラシヨウ

菅原庄 羽咋郡に屬する。藩政時代では、詳しくは邑知院内菅原庄といひ、吉野屋・石坂・向瀬・散田・所司原・杉野屋・菅原の七ヶ村があつた。

スガハラシヤ

菅原神社 羽咋郡菅原に鎮座する。式内等舊社記に「菅原神社。菅原庄菅原村鎮座、今稱菅原大神。舊傳云。往古以來北野天神社領也。故勸請云。」とあり、又能登名跡志には「菅原村に天滿宮の大社有。護國山菅原寺といふ。社領九十俵也。別當成喜坊・遍照坊とてあり。社領の内十五俵